

事例に学ぶ

デジタル化・省力化の土台は
20年継続してきた改善活動

(株)関西オカムラ

(株)関西オカムラは、1960年に創業。(株)オカムラのオフィス什器の生産拠点として、デスク、キャビネット、ワークテーブルなどの製作を手掛けている。同社は、作れば売れた大量生産の時代の頃より、将来の消費者ニーズ多様化の時代を見据え、メカトロニクスを駆使したオートメーション化や販売・生産・調達等のオンライン化に取り組んできた。その一つが、受注から見積作成、仕入、生産に関



▲鎌倉社長

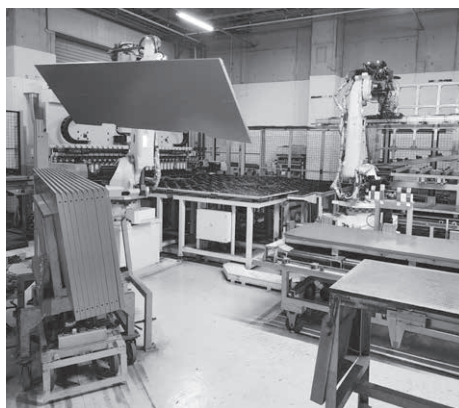
するデータベースの構築である。8万点を超えるアイテム数を有しながら、必要最小限の在庫で迅速に対応できるよう、長年データを蓄積。受注から生産まで最善の方法をすぐに導き出せる体制を整え、さらには季節ごとの受注予測も可能とすることで無駄な在庫の削減に貢献している。また、作業の効率化を図り生産リードタイムを短縮するため省力化にも積極的に取り組んでいる。単純な繰り返し作業だけでなく、重量物の製造・運搬など、従業員に負担や危険を強いる作業などを中心に自動化を図り、現在では、工場内には60台以上のロボットが溶接、接着、パーツ供給、塗装、パレット積み込みなどの作業を行っている。これらの取り組みの礎となってい

るのが、20年以上前から行っているOP S（オカムラプロダクションシステム）活動で、製造原価の低減、合理性の追求、必要なものを必要な時に必要なだけ製造するジャストインタイム、良い品をより安く造る事への挑戦に取り組み、これらの改善活動の成果発表会、知識レベル向上のための勉強会なども行っている。

「デジタル化はあくまで手段で目的ではありません。重要なことは自分達がどのような課題を抱えているか、何を目標としているかを正しく見える化し共有すること。その点でOP S活動は非常に重要な役割を果たしています。弊社の現在の姿は、20年以上積み重ねてきたこの改善活動の成果であるともいえます」と鎌倉社長。さらに近年はICTを活用し、出社・在宅に関わらずデータベースにアクセスできる環境を整え、働き方の面でも効率性を追求している。

「新型コロナウイルスで、働き方は大きく変わり、従来のオフィス用品の需要は減少していますが、一方

でシェアオフィス関連など新たな需要も生まれています。弊社のこれまでの改善活動で培ってきたものを総動員して、これからの変化の時代に挑戦していきます」と鎌倉社長は力強く語ってくれた。



▲数多くのロボットが導入された製造現場

(株)関西オカムラ
代表取締役社長 鎌倉 康雄 氏
所在地 東大阪市稲田上町 2-8-63
電話 06-6744-5151
従業員 230人